

議事要旨(1) 保険契約専門委員会における検討状況

冒頭、新井副委員長より、ASBJ が 2014 年 12 月の会計基準アドバイザー・フォーラム(ASAF) 会議の「保険契約」のセッションで発言した「統合 OCI アプローチ」に関して、CFO フォーラムの提案との比較を踏まえた事務局の分析に対するご質問やご意見を頂きたい旨の説明がなされた後、丸岡専門研究員より[審議事項(1)]に基づき詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主なコメントと、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - 改訂 ED で問題点と考えていた負債と資本の泣き別れの問題について、課題として共有した上で、具体的な対応を検討して頂いている点に感謝する。統合 OCI アプローチと CFO フォーラムの提案は、いずれもこの問題の抜本的な解決策となりうると考えている。
 - 統合 OCI アプローチの場合は、保険契約負債の金利費用の計算に用いる割引率に資産側の変動に応じたキャッシュ・フローの変動を反映させる必要はないと考えている。この点は、CFO フォーラムが提案している簿価利回り法において、対象とする資産の特定方法や利回りの具体的な算出方法等の困難さが指摘されている点と比較して、統合 OCI アプローチのメリットと考えている。
 - 当初認識時に生じる OCI を「連結環」と説明している点については、ASBJ の理論としては整合すると考えるが、多くの関係者からは、財務諸表上は認識されていない自己創設のれんとの関係を指摘される可能性があるため、統合 OCI アプローチだけでなく、未稼得利益及びその事後の変動を全て CSM に認識する「統合 CSM アプローチ」も検討に値するという形で両論を併記してもよいのではないかと。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- いわゆる統合 OCI アプローチを主張する場合は、有配当契約だけではなく、無配当契約にも影響すると考えており、割引率に資産側の変動に応じたキャッシュ・フローの変動を反映する点の検討が必要であると記載している点に関しては有配当契約を対象とした整理であるが、ご指摘を踏まえて引き続き検討する。
 - 今後、意見発信する場合は、2 つのアプローチの両論併記という形ではなく、どちらのアプローチが望ましいかを整理した上で提案した方がよいと考えている。
- ある委員より、次のコメントがあった。
 - OCI が「連結環」であることは理解しているが、保険契約の特殊性を踏まえて当初認識時に OCI を認識する点は初めてのケースであり、これまでの ASBJ の主張と整合するかは整理する必要がある。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - OCI が「連結環」である点と当初認識時に OCI を認識する点が整合的かという点については、十分に検討して頂きたい。
 - 統合 OCI アプローチは、財政状態計算書の貸方を 3 区分で表示することを前提にしたものなのか。仮に 3 区分で表示するアプローチが認められない場合の対処方法も検討して頂きたい。
 - CSM を負債ではないとして全額 OCI としてよいのか、OCI から除外すべきものはないのかも検討して頂きたい。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- 慎重性の観点で指摘されている点は、財務諸表利用者が OCI をどのようなものと捉えるかによると考えているが、ASAF 会議等においても指摘されている点のため、引き続き検討する。
- CSM を全額 OCI としてもよいのかという点に関しては、履行キャッシュ・フローと CSM との線引きを明確にすることで説明可能と考えているが、引き続き検討する。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - 統合 OCI アプローチの場合に、OCI から純損益へのリサイクリングをどのように説明するのか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- 保険契約の場合は、保険カバーの提供に応じて純損益へ認識する必要があると考えており、有配当契約ではそれに加えて、資産管理サービスの提供という面も加味する必要がある。なお、この点に関しては、ASBJ が提出した改訂 ED に対するコメント・レターの中でも、CSM の純損益への認識方法はより明確に記載すべきであるとコメントしている。

以 上